

こどもの生活実態調査 Q&A

項目	質問	回答	掲載日
調査全般	アンケート回答中にネットが途切れた場合、同じ端末から回答しなおしてよいのか？	よいです。 ただし、自動バックアップ機能等はないため最初の設問からやり直しになります。 ※一時保存の機能はあるので、活用すれば途中から再開できます	5月13日
	・不登校児童、アンケート当日欠席者も回答必須なのか？ ・特別支援学校の児童・生徒で回答が難しい子も回答必須なのか？	各児童・生徒の状況にあわせてできる限りの回答へのご協力をお願いします。	5月13日
児童生徒の調査	回答にはどのくらいの時間がかかるのか？	設問は小学5年生・中学2年生が75問程度、それ以外の学年が50問程度です。 回答時間は設問数が一番少ない子で10分ほど、一番多い子で30分ほどと思われます。 設問数を見直し、回答時間の短縮に努めています。 →最終設問数 小学5年生・中学2年生が66問、それ以外の学年が40問となりました。 回答時間は10～20分程度です。	5月13日 →6月6日更新
	寮生の場合、実家の市町村で回答するのか？	現在住んでいる市町村で回答します。 例えば、寮や下宿先が大分市であれば「大分市」で回答します。	5月13日
	小学5年生と中学校2年生はこどもの生活実態調査があるが、これはホームルーム等で回答を実施できない想定なのか？	各校の状況にあわせてホームルーム等で実施をお願いします 小学5年生と中学2年生は一度の回答で二つの調査を行います。 例えば、児童・生徒がアンケートに答える際に、「小学5年生」もしくは「中学2年生」を選択するとヤングケアラーに関する調査に答えたあとに、こどもの生活実態調査の設問が続きます。	5月13日
	小学5年生と中学2年生の調査票には児童生徒用・保護者用それぞれに入力番号がある。これはどういったものなのか。	児童生徒の回答と保護者の回答を紐づけるための番号です。特定の世帯や、個人を特定するものではありません。	6月6日
	定時制の4年生も調査対象なのか？	調査対象です。	5月13日
	通信制の生徒も調査対象なのか？	調査対象です。学年を選択する際に「通信制(18歳未満)」「通信制(18歳以上)」の選択肢を設けています。	6月6日
	小学5年生と中学2年生はヤングケアラーに関する調査とこどもの生活実態調査、2つの調査を行うとあるが、それぞれ二次元コードがあるのか。	二次元コードは一つです。学年を選ぶ設問で「小学5年生」「中学2年生」を選ぶと、ヤングケアラーに関する質問を終えたあと、自動でこどもの生活実態調査に移行します。	6月11日
保護者の調査	高校生の保護者も調査対象なのか？	高校生の保護者は調査対象ではありません。 小学校5年生と中学校2年生の保護者がこどもの生活実態調査の対象です。	5月13日
	小学5年生と中学校2年生の保護者はどのように回答するのか？	学校から配布された保護者専用の回答用二次元コードから回答してもらいます。 保護者には自宅等で回答してもらいます。	5月13日
	インターネット機器がなく、紙で回答したい場合は、どうすればよいのか。	紙調査票で回答する保護者へは、学校から返信用封筒が配られます。そちらに入れて郵送で提出してください。提出先は 大分県 こども・家庭支援課です。	6月6日
	回答にはどのくらいの時間がかかるのか？	設問は最大26問で、回答時間は10～20分程度です。	6月21日